

指導に生きる評価をめざして ～自己評価と補充・深化学習～

静岡県浜北市立北部中学校 小畑多佳子



1 はじめに

評価を考えると、「指導と評価の一体化」「指導に生きる評価」が大切であるといわれる。毎時間生徒の実態や現状を的確にとらえ、それに合った指導の手立てを取るために、自己評価表を使って1時間の授業の理解度を確認し、授業内容をまとめたり、疑問点を記入したりするようにした。しかし授業の中では理解をしていますが、時間がたつと、忘れてしまったり、わからなくなってしまう場合が多い。そのため、単元末に補充・深化学習を行うことが理想であるが、現実には時間の制約もあり、各単元末での実施は難しい。そこで経済分野全体の学習のまとめとして補充・深

化学習に取り組んだ。

2 年間指導計画・自己評価表 等

年間指導計画に基づいて、自己評価表を作成した。その際毎時間の授業で押さえるべき、基礎・基本を生徒にも明確に提示した。経済分野では、単元を①消費者②企業③政府の三つに構成した。三つの単元のスタートでは、経済分野に関する自己課題を設定し、追究活動を行った。また三つの単元のまとめとして、各単元の基礎・基本にかかわる用語を中心に確認テストを行った。そして自分で学習内容の定着度を判断した上で、補充・深化学習に自己選択で取り組んだ。

<資料1 年間指導計画(②企業)>

第3学年 社会科 年間指導計画

「どんな企業が魅力的？」

<単元の学習に対する関心・意欲・態度>

- ・自分と企業とのかわりを考えながら、「魅力的な企業」のすがたについて考えようとする。
- ・「魅力的な企業」について経営者、労働者、消費者の3つの立場で考えようとする。

次	学習項目	本時の目標	何を(基礎・基本)	どのように(授業づくり)	評価
1	どんな企業をつくってみたい？(君は社長さん)	・企業活動に必要なものをあげ、自分の作りたい企業を考える。(関・意・態)	○企業をつくるために必要なもの(土地・施設・労働力・原材料・輸送手段) ★自分の作りたい企業を考える	・自分が企業の経営者になると想定し、どんな企業をつくるために何がどれだけ必要かを考える。	・企業を興すのに何が必要かを調べることができたか。(関・意・態)
2	経営資金を集めてみよう	・株式会社のしくみを学習することを通して、企業の資本金の集め方と株式会社のメリットを指摘する。(知・理)	○株式会社のしくみ ○株式会社のいいところ ★株券を読む ★株式会社のいいところを考える	・前時の会社を立ち上げるための資金を集める方法をいろいろ考える。	・株式会社の仕組みと株がどういふものであるか理解し、株式会社のメリットを指摘したか。(知・理)
3	どうやったら勝てる？(企業競争の実態)	・現実社会の中での企業の競争の実態を知り、競争の意義と課題に気付く。(思・判)	○自由競争に勝つための企業努力 ○独占と独占禁止法 ★競争の意味を考える	・不況時に企業がどんな努力をしているか調べ、自由競争に勝つための方法を探る。	・同業他社に競争して勝てるような工夫を考えたか。(思・判)
4	世界にはばたくために・・・	・貿易や海外進出などの実態から企業が外国と関わっている理由を考える。(思・判)	○日本企業の海外進出の実態 ○日本企業の海外進出の理由 ○外国資本の参入の実態と理由 ★グラフ資料の読み取り	・自動車会社や家電会社を例に、貸金や貿易摩擦などの視点から、企業進出の理由を資料から読み取る。	・企業が外国と関わっている理由を自分の言葉でまとめたか。(思・判)
5	好景気・不景気って何？	・景気変動によって企業が受ける影響と対応策を考える。(思・判)	○好景気・不景気 ○不況時の企業の対応 ★文章資料の読み取り ★不況時の対応策を考える	・不況の中で企業や金融機関がどのような方法をとるか、グループで予想する。	・景気が悪いときに、企業や金融機関がどのような対応をするかまとめたか。(思・判)
6	銀行は何をしているの？	・金融のしくみや日本銀行の役割について調べる。(表・技)	○金融のしくみ ○日本銀行の役割三つ ○公定歩合 ★公定歩合と景気の関係を考える	・金融機関を利用する理由を自分の生活を通して考えるように促す。	・金融のしくみや日本銀行の3つの役割についてまとめたか。(表・技)
7	企業の責任って何だ？(地球にやさしい企業を)	・企業の社会的責任とはどんなことかを考え、環境保護のために自分たちができることとしてどんなことがあるのか意見をもつ。(関・意・態)	○企業の社会的責任 ○環境問題と企業 ★環境にやさしい商品を見つけたら ★企業が社会的責任をはたす方法を考える	・自分が企画した企業の社会的責任を検討し、企画書を修正する。	・廃棄物や副産物などを資源として活用する案を考えたか。(関・意・態)
8～9	こんな職場で働きたい！	・さまざまな雇用の実態を知り、働く側の権利を具体的に指摘する。(知・理)	○労働三法と労働三権 ○男女雇用機会均等法 ★文章資料の読み取り ★グラフ資料の読み取り	・就職活動の資料を用意し、自分が働きたい企業の条件をあげる。	・自分の企画した企業は、労働者の権利という点を考えたものだったか。(知・理)
10～11	自分の企業を紹介しよう(形成的評価)	・これまでの学習より、自分たちの考えた企業のよい点を発表し合い、将来の就職を視野に入れながら、雇用する側、される側双方の視点からのよい企業を考察する。(関・意・態)(思・判)(表・技)(知・理)	★他の人の考えを基に、自己の考えを深め広げる技能 ★自分の特に主張したいことをわかりやすく発表できる技能	・各自が企画した企業について、相互交流を行い、よい企業の条件を考える。	・友だちが考えた企業の長所を発見できたか。(関・意・態)(思・判)(表・技)(知・理)

<資料2 自己評価表 ③政府>

時間	学習内容と目標	これだけはわかるようになろう!(○) できるようにならう!(☆)	感想・発見・疑問点・学びたいこと	評価
1	50年後の社会(イザシ) ・少子高齢化社会が進むと社会にどんな影響が表れるのか考えよう。	○少子高齢化社会 ○公的介護保険制度 ☆少子高齢化社会の問題を考える	
2	福祉社会ってどんな社会? ・社会的に弱い立場の人にも安心して生活できる社会の姿について考えよう。	○福祉社会 ○バリアフリー ☆ともに生きる社会について考える	
3	社会保障制度はだれのため? ・社会保障制度のしくみや制度と私たちの生活とのかわり、その問題点について調べよう。	※社会保障制度 ○社会保障 ○社会福祉・環境 ○社会福祉 ○公的扶助 ☆日本の社会保障の問題点の読み取り	
4	税金は何のためにあるの? ・税金の種類やその使われ方について調べよう。	○直接税と間接税 ○累進課税 ○財政の役割 ☆税制度の問題点を考える	
5	日本は豊かなのか? ・日本は財政的に豊かなのか、国債と社会資本の点から考えよう。	○社会資本 ○国債 ☆グラフの読み取り ☆日本の財政の問題点を考える	
6	公害問題から環境問題へ ・これまでの学習をよまよ、自分の考えを主張したり、友だちの考えと比べたりしよう。	○四大公害問題 ○公害対策基本法 ○環境基本法 ☆環境と経済について考える	
7	評価 ・経済分野全体の学習を振り返り、自分の力を確認し適切なコースを選択しよう。	○賢い消費者とは? ○魅力的な企業とは? ○税金の意義は? ☆自分の力に合ったコース選択	
8	自分で選んだ学習に取り組もう ・深化・補充コースの学習に目的をもって取り組もう。		
9			
10	総合的評価 ・2-2別の学習を生かしたかどうか、自分の力を確かめよう。		

*評価は、上の段には「今日の授業に頑張って取り組めたかどうか」をA・B・Cで記入、下の段には「1時間の活動の中でわかった!(○)できた!(☆)かどうか」をA・B・Cで記入。

◎税金のかけ方や使い方について、「こうするといいい」という提案をしよう。

振り返りの記述

<資料3 確認テスト ③政府>

III 税金は何のためにあるの?

1 高齢者の割合が増え、子どもの出生率が低下している日本は、
(①) 社会に突入したと言える。(①) 社会において心配なことは、高齢者の介護の問題であり、それを解決するために2000年～(②) 制度が導入された。 ① ②

2 社会保険、公衆衛生・環境、社会福祉、公的扶助の四つを合わせて(③) 制度という。(①) 社会が進行していくこれからの日本では、国の歳出に占める(③) 費の割合が増加していくこと、四つの中でも特に(④) の割合が高くなっていくことが心配される。 ③ ④

3 日本国民が納めている税には、負担者と納税者が同じ(⑤) と負担者と納税者が異なる(⑥) がある。(⑥) の代表例は、(⑦) 税である。また、(⑤) の代表例である所得税は、収入が多い人ほど、税率も高くなる(⑧) 制度がとられている。 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

4 財政の役割を三つ答えなさい。(⑨)
・(a) では供給できない財やサービスの提供
・(b) の再分配
・(c) の調整：不景気の際は(d) 税を行う ⑨a b c d

5 日本の国が、収収の不足を補うために国民や企業からしている借金を(⑩) と言う。 ⑩

6 道路や公園、下水道、文化センターなどは(⑪a) と呼ばれ、(⑪a) を整備することを(⑪b) と言う。日本は諸外国に比べ、この(⑪a) の整備が十分で(⑪c)。 ⑪a b c

7 国民には(⑫) の義務がある。これからの社会は、税収入りが不足することが予想されるため、理想の社会をつくるためには、(⑬) が必要である。 ⑫ ⑬

() 組 () 番
()

※私は次の2時間は・・・
□補充コースを選択して、経済分野の学習を完璧にするぞ!
☆一人で ☆友だちと ☆先生と
□深化コースを選択して、自分の課題を追究するぞ!

I	/ 15		
II	/ 22		
III	/ 13	50	

追究課題

(1) 本時の目標

<補充コース>経済に関する基本的な語句を用いて、市場経済の仕組み、税の仕組みと意義などについて、自分の言葉でワークシートにまとめる。(知識・理解)

<深化コース>自分の学習課題の解決を図るため、複数の資料を用いたり、既習事項と関連付けたりしながらレポートを完成する。(思考・判断)

(2) 授業構想

本時は、補充・深化学習の2時間目に当たる。
(中略) 経済分野の形成的評価を基に、生徒自身が次の2つのコースの中から選択をする。

A: 経済の学習を教科担任や級友と一緒に振り返る(補充)コース

B: 経済の学習をはじめるときに抱いた疑問=学習課題のうち、授業の中で解決が不十分だと

思われる課題を自分の力で解決していく(深化)コース

コース選択に当たっては、生徒自身の希望を尊重するが、個別にカウンセリングを行うことで、より適切なコース選択ができるようにし、A(補充)コースの生徒には、特に「わかった!」という思いを、B(深化)コースの生徒には、「やってみた!」「できた!」という思いを味わわせたい。また、A(補充)コースの1時間目は教師主導の学習を行うが、2時間目に当たる本時は、少しずつ生徒の主体的な学習になるように、ヒントカードやワークシートなどを用意したり、キーワードを示したりするというように支援を最小限にとどめたい。B(深化)コースについては、1時間目の取組のようすをみながらヒントカードを用意するが、生徒ができるだけ主体的に支援を求めることができるように励ましていきたい。

(3) 学習過程<資料4 活動案>

<資料5 用語集 ③政府>

○生徒の活動	・教師の支援	評価
<p>A: 補充コース <前時の主な活動> ・教科書や資料集、既習のワークシートを使いながら、基本となる用語をワークシートに整理する。</p> <p><本時> ・前時にとめた基本となる用語の確認をする。 ・基本となる用語を使いながら ①市場経済の仕組み ②税の仕組みと意義 についてまとめるワークシート2枚を完成する。 ③自分一人で、または友だちと相談しながら学習を進めてもよいことを伝える。 ④必要に応じて、教科書や資料集、既習のワークシートを用いたり教師に相談したりするように促す。 ⑤自分一人で、または友だちと相談しながら学習を進められない生徒には、教師とともに学習を進めればよい旨を助言する。 ・完成したワークシートの答え合わせをし、自分の理解度を評価する。 (市場経済の仕組み・税の仕組みと意義) ⑥正しく記入されたところは赤ペンを入れて称揚する。 ・それぞれのコースで、学習したこと、わかったこと、考えたことなどを発表し合う。</p>	<p>B: 深化コース ・自分の学習課題を解決するために、教科書・資料集・ヒントカードを参考に、調査活動を進める。 ・授業の終わりに、調べ方や資料についての質問をカードに書く。</p> <p>・ヒントカードを参考にしながら調査活動を継続して行う。 ⑦前時までのワークシートには、調査方法や資料について、アドバイスをおく。 ⑧調査方法や資料、まとめ方で疑問点があれば、その都度質問するように促す。</p> <p><活用資料に偏りがある生徒> ⑨複数の資料を比較しながら調査活動をするように促す。 <資料が読み取れない生徒> ⑩文章資料→数字や年度、グラフや図表→数字や年度、変化や割合の見方などについてアドバイスを行う。 <まとめ方が工夫できない生徒> ⑪グラフ、表、イラストなどが効果的に活用されている例を示す。</p> <p>⑫適切な方法でまとめられているか確認する(表現方法の優れているレポートの提示・まとめ方の紹介など)を決定する。 (資料活用・適切な方法での表現) 調査活動を通して、分かったことや考えたことを記述し、発表する。</p>	<p>A: 補充コース ・経済的分野の学習の基本となる用語をワークシートに整理したか。(7-9-1)</p> <p>B: 深化コース ・自分の学習課題に対し適切に資料を選択して調査活動を行ったり、新たな疑問点を見つけたりしたか。(7-9-1)</p> <p>A: 補充コース ・経済に関する基本的な語句を用いて、①市場経済の仕組み②税の仕組みと意義についてまとめたか。(7-9-2)</p> <p>B: 深化コース ・自分の学習課題に対し複数の資料を組み合わせて、既習事項と関連付けたりして調査活動を行ったり、分かったことや考えたことを記述したか。(7-9-2)</p>

用語集(経済分野編)を完成させよう! ()組()番 ()

3 税金は何のためにあるの?

用語	意味	など
高齢者の割合が高く、子どもの出生率が低下している社会		
制度	40才以上の人が全員加入して保険料を払い、市町村が運営している介護保険制度	
制度	公的年金や医療費など、特別なものやサービスについて、自己負担ではなく社会全体で負担しているという制度。 ()・()・()のつづきがある。	
	社会保障制度のうち、公的年金、医療保険など。社会保険費は、社会保険費の中で、もっとも割合が()い。	
	所得税など、納税者=負担者の税。	
	消費税など、納税者と負担者が異なる税。消費税の負担者は()だが、納税者は()。	
	所得税のように、所得の高い人ほど税率も()なる制度。	
財政の役割	①()では供給できない財・サービスの供給 ②豊かな人と貧しい人の()の差をならす=所得の再分配 ③景気の調整=不景気の時は()税、政府がものを売る 代表的なのが()政策	
	日本の国が、国民や企業からしている借金。	
	民間の企業では供給できないため、政府が供給している財=道路・公園・文化センターなど	
	社会資本を整備すること	
	国の歳入を支える税金を納める義務	

※チェック欄は、○K完璧! = A、うん! 思い出した! 大丈夫 = B、が〜ん、何のこと? = Cで記入

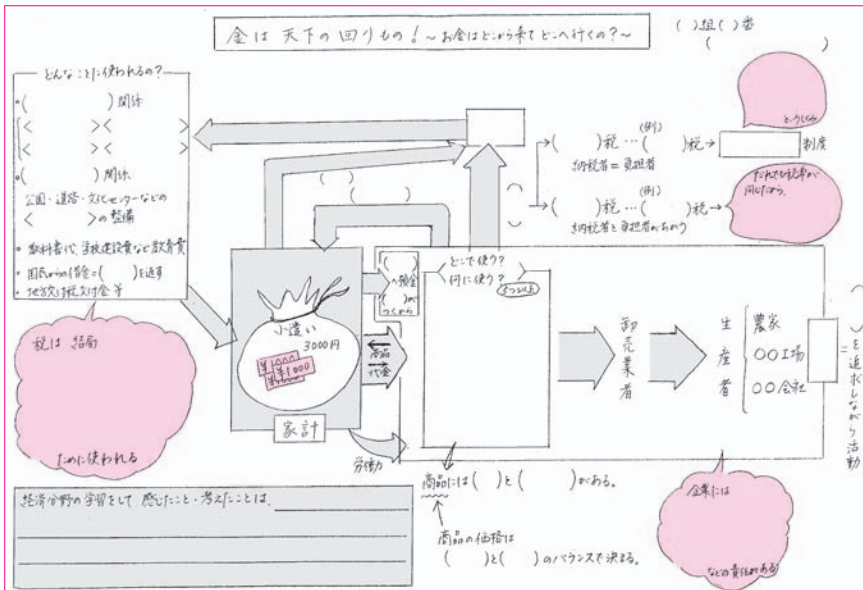
3 税金は何のためにあるの?

チェック欄

A	B	C	
			<input type="checkbox"/> わかった! OK! 完璧!
			<input type="checkbox"/> 大体思い出せた! 大丈夫!
			<input type="checkbox"/> このままでは、まずい!!

用語集づくりを終えて、自分は・・・
 1 かしい消費者になろう もう一度やる
 2 どんな企業が魅力的? もう一度やる
 3 税金は何のためにあるの? もう一度やる
 消費者・企業・政府のつながりをまとめる
 ことが自分の力を付けるために必要だ!

<資料6 A(補充)コースのまとめワークシート>



とができた。また、経済分野全体を振り返る学習を行ったことは、単なる補充学習にとどまらず、経済分野における単元と単元との関連性に気付くことができた。次の政治分野の学習に対する関心を高めたりすることにつながった。そうした点で「指導に生きる評価」となった反面、深化学習に対する支援の工夫が十分でなく、生徒の主体性にまかせ過ぎた

3 おわりに

自己評価表を用いることで、生徒は1時間の自分を評価し、自分の学習の到達度を知ることができた。教師は、生徒一人ひとりの努力を認め、個に応じたアドバイスや励ましの言葉かけをするこ

という課題が残った。深化学習や発展的な学習は、扱いが難しい反面、生徒の学習意欲を高めたり、生徒自身の学力を向上させたりするための大きな可能性をもっている。今後十分な力をもった生徒の力を一層伸ばすための深化学習や発展的な学習を工夫していきたい。